



## まえがき

私は、独身時代に養護施設と保育園で12年間、子育てを14年経た後、現場に復帰してから4年間、保育に携わってきました。

子どもは社会の宝物です。

子どもの心は純粋で、そばにいただけで癒やされます。

昨今、子どもたちが虐待を受けて、犠牲となる痛ましいニュースを見るたび、「なんとかできなかつたのか」と本当に残念に思います。

さて、「三つ子の魂百まで」という言葉をご存じでしょうか。

この言葉のように、小さい頃の関わり方が、のちのちの人間形成に多大な影響を与えます。

生まれてきてわずか3年の間に、脳と心はものすごい急成長をします。

人間の脳は3歳までに80パーセント、6歳までに90パーセント、12歳までに100パーセント完成するということがわかっているそうです。

この頃に得たことは、大人になっての基礎になります。

子どもたちの小さい頃は、少しの間です。

この、子どもたちといられる時間を大切にしたいのです。

大切なこの時期に、しっかりと愛情のもとで育てられた子どもは、笑顔があふれ、お話もたくさんしてくれ、心も落ち着いて成長できます。

幼い頃に接するのは、ほとんどの子どもたちはお母さんが多いでしょうね。

子どもは誰が一番大好きか……。それはまぎれもなく自分の一番身近な人、お母さんです。もしくは、いつもそばでお世話をしてくれる人……。そう、自分を大切に思ってくれる人です。

先ほども書きましたが、子どもたちが小さい頃は少しの間です。どうか、子どもという時間を大切にしてあげてください。

少子化といわれて久しい現代なのに、保育士不足といわれ、待機児童もいっぱいです。保育園を落ちた子どもの母親の中には、どうすればいいか途方にくれる人もいます。

預かってくれるところがないとなると、少子化なのに、ますます子どもの出生率は減少するかもしれません。

働くお母さんが多くなってきたのは“働かないと生活していけない”、つまりお金がたくさん必要だということですね。

これは大変深刻な問題で、そんな今だからこそみんなで取り組んでいかなければいけないことだと思います。

大人が手をかけなければいけないこの時期、子どもたちにとって、もちろんお母さん（子どものそばでお世話をしてくださる方）にとっても、暮らしやすい社会になってほしいです。

これは何も、人からしてもらっただけというわけでなく、われわれ大人も、子どもたち一人ひとりを慈しみ育てていくことが大切だと思います。

改めて「子どもを育てる」ことの大切さを知っていただき、未来を担っていく子どもたちに心からの笑顔があふれる社会へ。そして、そんな子どもたちを育てているお母さんたちにも、子育ての楽しさをぜひとも味わっていただきたい。

この本は、今まさに子育て真っ最中の方々、そしてこれから親になれる方に、ぜひ読んでいただけたらと思います、書きました。